

生徒指導提要における変化の可視化の試み

—計量テキスト分析による新旧比較—

田 川 隆 博*

キーワード：生徒指導提要、生徒指導、計量テキスト分析

1. はじめに

本小論の目的は、12 年ぶりに改訂された令和 4 年（2022 年）12 月版の生徒指導提要について、どのような変化が見られるのか、計量テキスト分析によって明らかにすることである。最初に作られた 2010 年版と比較することで、この 12 年間の変化を具体的に検討したい。

新しい生徒指導提要に影響を与えたものとして、いじめ防止対策推進法（2013 年）と令和の日本型学校教育¹があるとの指摘もあるが、この間には学習指導要領の改訂、障害者差別解消法、性の多様性への理解など、数多くの変化があった²。そうしたものを一つ一つ取り上げる余裕はこの小論にはないが、生徒指導提要の記述に影響をもたらす変化があったことは指摘しておきたい。

具体的にどう変化したかについて、計量テキスト分析を行っていきたい。どのような語が多く使われ、またそれはどのような語と共に使われているのか、この 12 年でどのような違いがあるのかを見ていくこととする。

* 中部大学 教職課程センター 教授

生徒指導提要における変化の可視化の試み

表1 抽出語上位100 (新版)

抽出語	回数	抽出語	回数
1 児童	1632	51 適切	151
2 生徒	1416	52 障害	148
3 学校	1158	53 図る	145
4 教育	671	54 行動	138
5 支援	621	55 早期	136
6 生徒指導	616	56 被害	133
7 対応	544	57 受ける	132
8 指導	505	58 基づく	126
9 行う	497	59 発見	126
10 関係	472	60 充実	125
11 必要	449	61 非行	123
12 保護	429	62 応じる	121
13 場合	404	63 基本	120
14 活動	393	64 少年	120
15 課題	374	65 目標	118
16 教職員	355	66 援助	116
17 連携	330	67 役割	115
18 いじめ	303	68 児童虐待	112
19 機関	296	69 平成	112
20 求める	293	70 専門	111
21 情報	285	71 計画	109
22 理解	274	72 困難	109
23 防止	262	73 働	109
24 問題	262	74 予防	109
25 社会	261	75 多様	107
26 相談	260	76 人間	106
27 重要	248	77 内容	106
28 学習	244	78 未然	106
29 発達	243	79 授業	105
30 学級	238	80 対象	102
31 家庭	223	81 共有	101
32 地域	202	82 教育委員会	101
33 ホームルーム	201	83 進める	100
34 生活	193	84 インターネット	99
35 行為	191	85 活用	98
36 自殺	190	86 自分	98
37 考える	186	87 心理	97
38 チーム	178	88 調査	97
39 体制	177	89 把握	97
40 大切	175	90 解決	96
41 組織	173	91 協力	96
42 自己	172	92 方針	96
43 状況	167	93 虐待	95
44 子供	163	94 持つ	95
45 取組	163	95 全て	94
46 可能	159	96 示す	91
47 教育相談	155	97 方法	91
48 不登校	155	98 福祉	90
49 暴力	153	99 実践	89
50 集団	151	100 提供	89

表2 抽出語上位100 (旧版)

抽出語	回数	抽出語	回数
1 児童	1784	51 育成	145
2 生徒	1557	52 計画	139
3 学校	1109	53 行為	139
4 指導	819	54 目標	137
5 教育	605	55 環境	136
6 生徒指導	603	56 小学校	136
7 必要	585	57 応じる	135
8 活動	573	58 基本	133
9 関係	541	59 安全	132
10 問題	541	60 教職員	132
11 社会	449	61 解決	131
12 行う	444	62 組織	131
13 場合	424	63 機能	130
14 教員	418	64 時間	130
15 行動	418	65 体制	129
16 保護	373	66 適切	129
17 理解	369	67 段階	124
18 学習	342	68 状況	123
19 生活	339	69 多い	123
20 地域	334	70 意識	121
21 情報	302	71 充実	121
22 集団	292	72 個別	118
23 対応	281	73 方法	116
24 学級	279	74 個人	115
25 大切	271	75 協力	114
26 連携	268	76 教科	112
27 家庭	263	77 援助	110
28 発達	262	78 全体	110
29 考える	242	79 授業	107
30 自己	239	80 進める	107
31 重要	237	81 機会	102
32 少年	223	82 具体	102
33 機関	220	83 子ども	101
34 担任	212	84 成長	101
35 相談	200	85 青年	100
36 自分	193	86 専門	100
37 図る	193	87 見る	99
38 教育相談	189	88 自ら	97
39 持つ	189	89 十分	97
40 人間	187	90 受ける	96
41 役割	187	91 心理	96
42 ホームルーム	180	92 態度	96
43 様々	180	93 可能	95
44 課題	172	94 効果	95
45 求める	170	95 実施	95
46 支援	168	96 把握	95
47 非行	157	97 心	94
48 障害	155	98 青少年	94
49 能力	155	99 述べる	93
50 内容	154	100 観察	92

2. 方法

分析に当たって、文部科学省 HP に公開されているウェブ版の生徒指導提要をデータとした。新しい生徒指導提要（以下、新版）は製本されたものとウェブ公開されているものに大きな違いはないが、以前の生徒指導提要（以下、旧版）については製本されたものとウェブ公開されたもので、ページ数や図のデザイン等に違いが見られる。

データ分析にあたっては、まえがき、本文、注を使い、目次は省略した。また図については、単語だけで語の関係がわからないものは省略、表の形で文になっているものは生かすことにした。「生徒指導」「教育相談」「特別活動」「いじめ」「不登校」「教育委員会」「文部科学省」「養護教諭」「特別支援」の語は、それぞれが意味を持つ言葉で、強制抽出した。

3. 分析

3-1 出現頻度の比較分析

表 1 は生徒指導提要新版、表 2 は生徒指導提要旧版で、それぞれよく出現する言葉を出現回数順に上位 100 位まで並べたものである。「児童」「生徒」「学校」「教育」が上位に来るのは共通した特徴である。一方、「支援」の語と「指導」の語の関係には変化が見られる。「指導」の語は旧版で 4 位、新版で 8 位とともに上位にあるが、「支援」の語は、旧版で 46 位だったのに対し、新版では 5 番目に来ている。つまり、新版では、「指導」より「支援」がより多くの文脈で使われているということがわかる。

「教員」と「教職員」の関係にも変化が見られる。旧版では「教員」の語が 14 位、「教職員」が 60 位だったのに対し、新版では「教員」がランク外（129 位、74 回）、「教職員」が 16 位であった。生徒指導は「教員」の仕事から「教職員」の仕事へと考え方が変化しているように見られる。

「いじめ」の語についても見てみよう。旧版では 100 位よりも下(83 回で 115 位)だったのが、新版では 18 位になっている。いじめへの言及の変化を見ることができる。

生徒指導提要新版では、第 II 部で「個別の課題に対する生徒指導」として、いじめ、暴力行為、非行、不登校、児童虐待、自殺といったことがらについて、それぞれ章を設け論じていることもあり、生徒指導の具体的な「課題」も出現頻度が高くなっている。先に挙げた「いじめ」の他、「自殺」が 36 位、「不登校」が 48 位、「暴力」が 49 位、「非行」が 64 位、「児童虐待」が 68 位などとなっている。旧版では「非行」が 47 位であるが、他の具体的「課題」はそれほど出現していない。

一方、課題への「対応」については、旧版と新版には共通性が多い。「連携」の語は旧版 26 位、新版 17 位となっている。「機関」「教育相談」「地域」「社会」などの語は共通した特徴といえる。「チーム」の語が新版で 38 位に見られるが、これはチームとしての学校³の考え方を受けてのことだと見られる。さまざまな専門性をもった教職員が連携して問題・課題に対応していくという考え方は以前から見られたものであるが、それを明確に打ち出したのがチームとしての学校である。新版では、「第 3 章 チーム学校による生徒指導体制」として、ひとつの章をチームとしての学校に割いている。このことが「チーム」の語を上位に押し上げたと見て良い。

3-2 共起分析

「教員」と「教職員」の語の出現回数に変化があり、新版では「教職員」の語が多くなったことは述べた通りだが、共通に生起する関係はどうなっているのか、どのような変化があるのか共起分析で検討していく。共起分析については、共通性の指標として Jaccard 係数を使用することにした。「教職員」との共起関係について整理したものが

中部大学教職課程年報 第 11 号

表3 「教職員」の関連語 (新版)

抽出語	全体	共起	Jaccard
1 理解	220 (0.096)	74 (0.282)	0.1814
2 生徒	797 (0.348)	154 (0.588)	0.1702
3 求める	276 (0.121)	77 (0.294)	0.1670
4 児童	868 (0.379)	160 (0.611)	0.1649
5 必要	366 (0.160)	86 (0.328)	0.1587
6 学校	691 (0.302)	129 (0.492)	0.1566
7 関係	365 (0.160)	83 (0.317)	0.1526
8 生徒指導	396 (0.173)	80 (0.305)	0.1384
9 行う	391 (0.171)	79 (0.302)	0.1376
10 重要	234 (0.102)	60 (0.229)	0.1376
11 組織	142 (0.062)	48 (0.183)	0.1348
12 対応	379 (0.166)	75 (0.286)	0.1325
13 保護	280 (0.122)	63 (0.240)	0.1315
14 大切	160 (0.070)	49 (0.187)	0.1314
15 共有	88 (0.038)	38 (0.145)	0.1218
16 図る	134 (0.059)	42 (0.160)	0.1186
17 連携	258 (0.113)	55 (0.210)	0.1183
18 情報	202 (0.088)	48 (0.183)	0.1154
19 課題	239 (0.104)	50 (0.191)	0.1109
20 取組	134 (0.059)	39 (0.149)	0.1092

表4 「教職員」の関連語 (旧版)

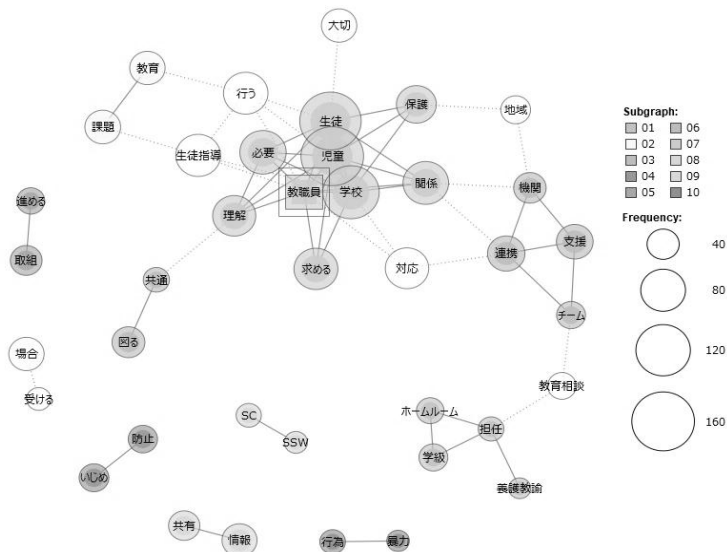
抽出語	全体	共起	Jaccard
1 組織	101 (0.042)	30 (0.291)	0.1724
2 体制	100 (0.041)	26 (0.252)	0.1469
3 進める	91 (0.038)	19 (0.184)	0.1086
4 共通	66 (0.027)	16 (0.155)	0.1046
5 意識	106 (0.044)	19 (0.184)	0.1000
6 担任	95 (0.039)	18 (0.175)	0.1000
7 生徒指導	404 (0.167)	46 (0.447)	0.0998
8 図る	178 (0.073)	25 (0.243)	0.0977
9 協力	101 (0.042)	18 (0.175)	0.0968
10 養護教諭	36 (0.015)	12 (0.117)	0.0945
11 連携	202 (0.083)	25 (0.243)	0.0893
12 必要	473 (0.195)	47 (0.456)	0.0888
13 共有	58 (0.024)	13 (0.126)	0.0878
14 対応	222 (0.092)	26 (0.252)	0.0870
15 明確	47 (0.019)	12 (0.117)	0.0870
16 機関	166 (0.069)	21 (0.204)	0.0847
17 ホームルーム	125 (0.052)	17 (0.165)	0.0806
18 述べる	85 (0.035)	14 (0.136)	0.0805
19 学校	663 (0.274)	57 (0.553)	0.0804
20 全体	99 (0.041)	15 (0.146)	0.0802

新版、旧版でそれぞれ次の表3、表4である。

表4の旧版では、「組織」「体制」「進める」という語が上位に来ていることから、「教職員」を中心としたときに生徒指導にどう取り組むかという観点からの考え方が現れているように見える。それに対し、表3の新版では、「理解」「生徒」「求める」ということが上位に来ており、生徒を中心に置き、教職員の関わり方が論じられることが優先されているように思われる。

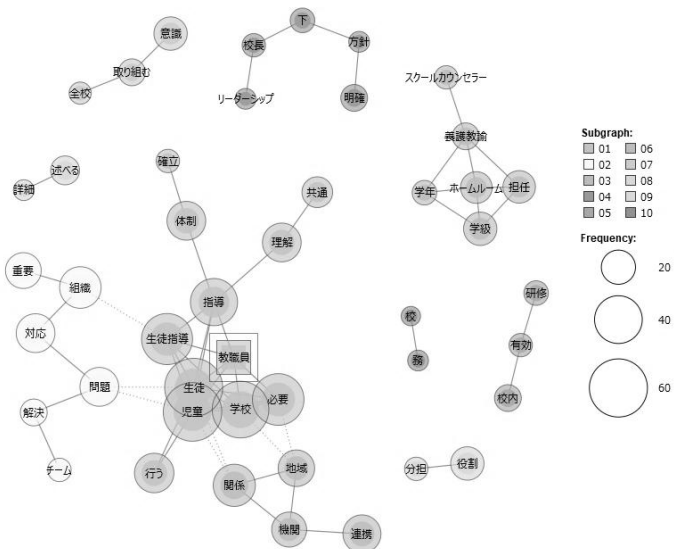
「教職員」について共起ネットワークも描画してみよう。図1、図2は「教職員」の語の、新版、旧版の共起ネットワークである。両者で注目してみたいのは「理解」の語との関連である。新版と旧版では次のような関係が見られた。旧版では「教職員」「児童」「生徒」が「指導」をはさんで「理解」と関係しているのに対し、新版は「教職員」「児童」「生徒」が直接「理解」と関係していた。

生徒指導提要における変化の可視化の試み



Nodes 39 Edges 60 Density .088 Min Jaccard .200

図1 「教職員」の共起ネットワーク（新版）



Nodes 45 Edges 60 Density .061 Min Jaccard .200

図2 「教職員」の共起ネットワーク（旧版）

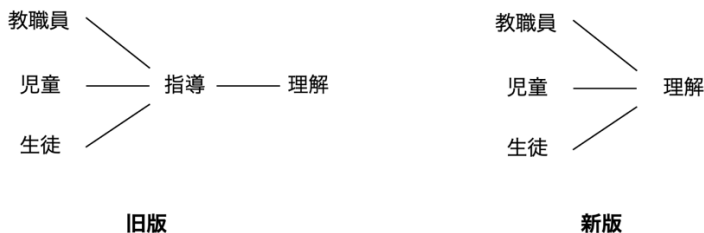


図3 「教職員」の語との関連

3-3 語の布置関係

「教職員」の語について、全体的な関係性も見てみたい。語の布置関係を検討するため多次元尺度構成法により図示したのが図 4（新版）、図 5（旧版）である。

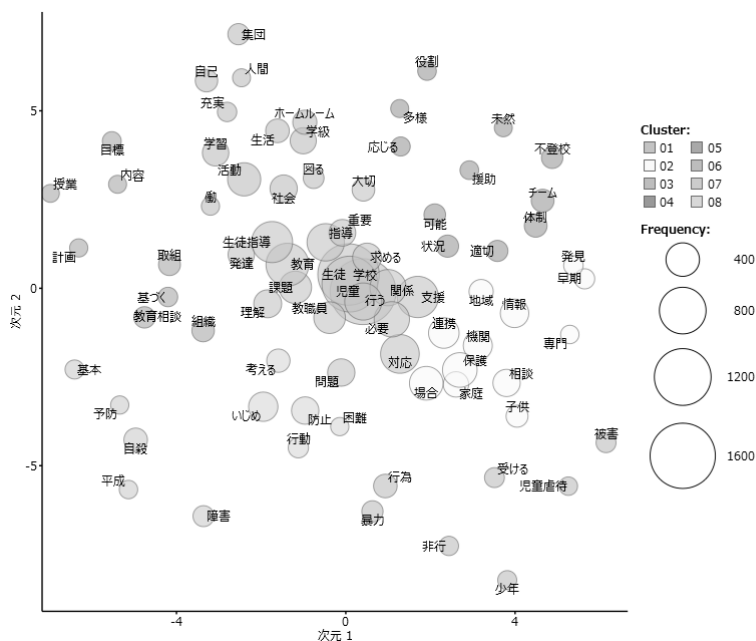


図 4 多次元尺度構成法による語の布置関係（新版）

生徒指導提要における変化の可視化の試み

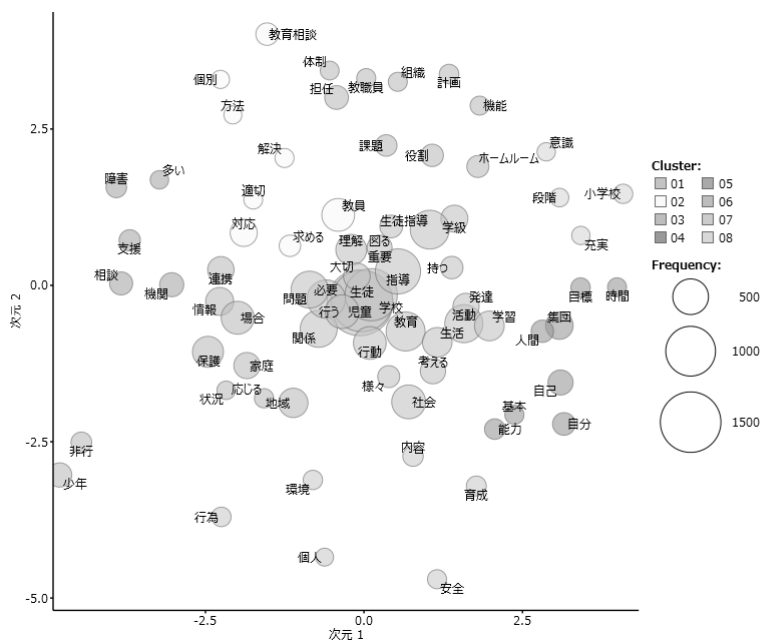


図5 多次元尺度構成法による語の布置関係（旧版）

新版の図4では「教職員」の語がほぼ中央にあり、さまざまな言葉と関連があるのに対し、旧版の図5では「教職員」の語は図の上部にあり、「組織」「担任」「体制」「計画」などの近縁にある。生徒指導提要の新版において、「教職員」が果たす役割が大きくなっていることが読み取れる。

分析結果を整理すると次のようになる。

- 出現回数を見ると「指導」の語は新版、旧版とも上位にある一方、「支援」の語は「新版」で出現順位を大きく上げた。
- 旧版では「教員」の方が「教職員」より多く出現していたが、新版では「教職員」が多く出現し、「教員」は少なくなった。
- 新版では「いじめ」「不登校」などの個別の問題・課題が多く出現するようになった。

- 課題対応については、新版、旧版とも連携して対応するという点で共通性が見られる。
- 共起関係については「理解」の語について旧版では「指導」とも関係しながら結びついているのに対し、新版では「教職員」「児童」「生徒」が直接「理解」と結びついている。
- 語の布置関係では、旧版の「教職員」が組織的な語と関連性が強いのに対し、新版の「教職員」は中央付近に位置し、さまざまな語と関連性がある。

4. まとめ

この小論で、生徒指導提要の旧版と新版にどのような考え方の違いが見られるか計量テキスト分析によって可視化する試みを行ってきた。新版では「教職員」「支援」「理解」「連携」というキーワードがより全面化している。新版の生徒指導提要の本文にも見られるように、生徒指導をめぐる状況は「多様化」「複雑化」していることから、より一層、それぞれの専門性に依拠しつつ相互に連携が求められているし、また児童生徒へのきめ細かい対応が求められてもいるという文脈で記述が進んでいる。

生徒指導は課題対応では迅速に、丁寧に、細やかに、予防や発達支持という観点では日常の活動に組み込みながらという点で新旧の骨組みは大きく異なるものではない。この旧版と新版の間の約 12 年間に起こったさまざまな生徒指導をめぐることがらが組み込まれ、時代に合わせたアップデートが行われたと読むことができるだろう。

これまでの長い生徒指導実践で積み上げられてきた蓄積と、時代に合わせた変化という両面で、今後も生徒指導が続いていくのだと考えられる。

¹ 中央教育審議会（2021）『令和の日本型学校教育』の構築を目指

して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）」

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf 2024 年 2 月 14 日最終閲覧。

² 寺子屋朝日 for Teachers 2023.1.2 「生徒指導提要改訂 ポイントを寺子屋朝日編集部が解説」 <https://terakoya.asahi.com/article/14788891> 2024 年 2 月 14 日最終閲覧。

³ 中央教育審議会（2015）「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/02/05/1365657_00.pdf 2024 年 2 月 14 日最終閲覧。